

第45回「風に関するシンポジウム」の報告

「風に関するシンポジウム」は、11学会(土木、海洋、風工学、気象、建築、航空宇宙、地震、地理、農業気象、流体力学、林学の各学会)が共催団体になって年1回開かれている。今回は気象学会が幹事学会になり、1998年12月22日(火)午後¹に東京大学海洋研究所で開催された。記名参加者は34人であった。終了後には会場近くのレストランで懇親会が開かれ、11人が参加した。

講演は下記の10件(1件20分ずつ；~~~~は講演者)である。うち3件は一般からの公募により、その他は世話人からの依頼によるものであった。

1. 藤部文昭(気象研)：台風に伴う地上風分布のメソスケールの特徴
2. Gang FU, Hiroshi NIINO, Ryuji KIMURA (東大・海洋研), Teruyuki KATO (気象研)：An isolated polar low development over the Japan Sea on 21 January 1997
3. 田中恵信(気象研)：ドップラーレーダーで捕らえた台風風速場のメソスケール変動
4. 佐川正人 (法大・地理)：知床半島の強風
5. 細見卓也 (気象庁・数値予報)：気象庁数値予報モデルでの風の予報
6. 羽田野祐子(理化学研)：風によるチェルノブイリ

の放射性エアロゾルの挙動とその応用

7. 日下博幸 (電力中研), 木村富士男 (筑波大), 平口博丸・水鳥雅文 (電力中研)：首都圏の土地利用変化に伴う海風前線の変化
8. 原智宏 (九大・工), 大屋裕二 (九大・応力研)：海風に伴う内部境界層の発達の数値シミュレーション
9. 吉門洋 (資源環境研), 魚崎耕平 (日本気象協会)：濃尾平野の冬季の冷気流—関東平野と比べて—
10. 鈴木力英(地球フロンティア)：千葉県の風の気候学的特徴

各講演とも活発な議論が行われ、多数の学会の共催によるシンポジウムの良さはそれなりに発揮されたと思われる。しかし、公募講演数の少なさに象徴されるように、シンポジウムが始まった当時(1950年代)に比べてその有難みが薄らいでいることも否定できない。シンポジウムの意義について、再検討していく必要があるかもしれない。

最後になりましたが、シンポジウムの運営のご尽力下さった東大海洋研(海洋気象部門)の皆様へ深く感謝致します。

(世話人：気象研究所予報研究部 藤部文昭)